永遠の真理

ETERNAL TRUTH

「キリストにあっては身分制度はない」

2011年 11月

「自己が空にされた謙遜な器」「黙示録18章の御使と1888年のメッセージ(IX)」

「コロコロポテトとピーマンの炒め物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強
「キリストにあっては身分制度はない」 4

朝のマナ
「自己が空にされた謙遜な器」 9
神のみかたちを回復する

現代の真理
「黙示録18章の御使と1888年のメッセージ(IX)」 40
The Good Way Series

力を得るための食事
「コロコロポテトとピーマンの炒め物」 44

お話コーナー
「神のみ言葉を心に覚える」 46

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp
メール：support@4angels.jp

発行日　2011年10月31日
編集＆発行　SDA改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：comstock.com p.1; Gettyimages p.1;
Sermonview p.9

Printed in Japan

天の真理の美しさだけが

栄光の王キリストはいやしい身となって人性をおとりになった。……外観の威光が人をひきつける対象となることがないように、キリストの栄光はおおわれた。主は外面的な見せびらかしをいっさい避けられた。富や世俗的な栄誉や人間的な偉大さは決して魂を死から救うことができない。イエスは現世的な性質を持った引力によって人々をご自分の側にひきよせることがないようにと意図された。天の真理の美しさだけが、イエスに従おうと思う者をひきつけなければならない。メシヤの性格は長い間預言を通して予告されていたので、キリストは人々が神のみことばのあかしにもとづいてキリストを受け入れるようにお望みになった。(各時代の希望上巻 29)

もしヨハネとアンデレが祭司たちや役人たちのように不信な気持をいだいていたら、彼らはイエスの足下に学ぶ者とはならなかったであろう。彼らは批判者としてイエスのところへやってきて、そのみことばを批判したであろう。多くの者はこのようにして最もとうとい機会に対して戸をとざす。しかしこの最初の弟子たちはそうはしなかった。彼らはバプテスマのヨハネの説教のうちにあった聖霊の召しに応じていた。いま彼らは天来の教師のみ声をみとめた。彼らにとってイエスのみことばは新鮮さと真理と美しさに満ちていた。天来の光が旧約聖書の教えを照した。真理の多方面のテーマが新しい光の中にはっきりとうつし出された。

魂が天の知恵を受けることができるのは、くだけた心と信仰と愛によってである。愛によって働く信仰は知識の鍵であり、愛する者はみな、「神を知っている」(ヨハネ第一 4:7)。(各時代の希望上巻 157)

真理のことばは、ますますその重大性を増し、これまで夢想さえしなかった意味深さをもったものとなる。みことば の美と富とは、人の心と品性を変える力を持っている。天からの愛の光は、霊感となって人びとの心の上に注がれる。

聖書は、研究するにつれてますます理解が深まるものである。聖書のどこを開いて見ても、そこに神の無限の知恵と愛とがあらわされているのを見いだすのである。(キリストの実物教訓 111)

受肉―キリストの性質

「キリストにあっては身分制度はない」

天にいる最高の天使も、失われた一人の魂のための贖い代を払う力を持ってはいなかった。ケルビムもセラピムも、創造主の被造物として、このお方より授けられた栄光を持っているにすぎなかった。だから、神への人の和解は、ただ神と等しい仲保者を通してのみ成し遂げられるのであった。すなわち、権威を与えるような特質、すなわちこのお方が人間のために無限の神と取引をするのにふさわしいと宣言し、また、堕落した世に神を代表するような特質を所有しておられたお方によって成し遂げられるのであった。人の身代わりであり保証であるお方は人間の性質、すなわちご自分が代表するべき人類家族とのつながりを持ち、また神の大使として、世に神を表し、神と人との間の仲保者となるために、神性にあずかり、無限のお方とのつながりを持っていなければならなかった。

これらの資質は、キリストのうちにのみ見出される。ご自分の神性に人性をまとい、このお方は人の子また神の子と呼ばれるために地上に来られた。このお方は人類のための保証であり、神のための大使となる―人間のためにご自分の義によって律法の要求を満たし、神の代表として神のご品性を堕落した人類に明らかにする―のであった。

世の贖い主はご自分に人を引き寄せ、彼らの恐怖をしずめ、彼らの闇を晴らし、彼らに希望と勇気を吹き込み、彼らに神聖な身代わりの功績を通してご自分が彼らを受け入れたいと望んでおられることを信じられるようにする力を持っておられた。神の愛の対象として、わたしたちには天の法廷に弁護人、助け主、仲保者がおられ、わたしたちのために御父の前に嘆願して下さっていることをいつも感謝しているべきである。

わたしたちには、神を信じる信仰と信頼を鼓舞するために求め得るすべてのものがある。地上の法廷では、王が人に自分の真実なことを保証する最大の誓いとして、自分の約束の成就を条件として贖うために、自分の子を人質に与える。そして、なんという御父の忠実さの誓いであるかを見よ。なぜなら、このお方は人にご自分の会議の不朽性を保証なさったときに、ご自分のひとり子が地に来られ、

人間の性質を、しかも人生の短い期間の間だけでなく、天の法廷においてもその性質を持ち続けるために、神の忠実さの永遠の誓いとして与えて下さったからである。ああ、神の知恵と愛の双方の富みはいかに深いことであろう！「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」（ヨハネ第一 3:1）。

キリストを信じる信仰を通して、わたしたちは王家の一員、神の相続人、そしてイエス・キリストと共同の相続人となる。キリストのうちにあって、わたしたちは一つである。わたしたちはカルバリーが見えるようになり、人の性質のうちに王なる受難者が自分のために律法ののろいを負われたことを見るとき、すべての国民的な区別や、すべての宗派の相違は見えなくなる。あらゆる階級の栄誉や身分制度の誇りを見失う。

神のみ座からカルバリーの十字架を照らしている光は、階級や人種の間に設けた人工的な隔たりに終わりを告げる。すべての階級の人が、地上の権力を通してではなく、神の愛を通して一つの家族の一員、天の王の子となる。この神の愛は、多くのむすこ娘たちを栄光へと連れていくことができるように、イエスを貧困と苦難と屈辱の生涯に、また恥辱と苦悩の死に渡されたのである。

だれでも神の評価において高くされるのは、地位でも、有限な知恵でも、資質でも、才能でもない。人の知性や理性やタラントは、神の栄光のために、すなわちこのお方の永遠の王国を築きあげるために用いられるべき神の賜物である。天から見て価値があり、墓もこえて生き残り、終わりのない永遠にわたる不死をもって栄光あるものとされるのは、霊的かつ道徳的な品性である。人が非常に高く誉れを帰す世の王権は、墓に入ればそこから出てくることは決してない。敵の目的のために用いられた富、誉れ、人の知恵は、その持ち主に、来るべき世界における嗣業や誉れや信任の立場をもたらすことはない。彼らを神の相続人、またイエスと共同の相続人としたキリストの恵みを感謝してきた人々だけが、自分たちの贖い主のみかたちをおびて墓からよみがえるのである。

天で神の家族の一員として数えられるのにふさわしいことを見出されるすべての人は、互いを神のむすこ娘として認識する。彼らはみな自分たちが同じ源、すなわち自分たちの罪のために十字架につけられたイエス・キリストから自分たちの力と許しを受けたことを悟るようになる。彼らはもし自分たちが義の白い衣をまとって、聖徒たちの明るい交わりの中に入りたいならば、自分たちの品性の衣をこ

のお方の血の中で洗い、その御名のうちに御父に受け入れられるべきことを知っている。

キリストのうちに一つ

そうであれば、キリストのうちに神の子らが一つとなるとき、肌の色や人種や地位や富や誕生、あるいは学識による身分制度や社会差別や、人を同胞仲間から引き離す区別を、イエスはどのようにご覧になることであろう。一致の秘訣はキリストにおける信徒たちの平等のうちに見出される。あらゆる分裂、不一致、相違は、キリストからの分離のうちに見出される。キリストは引きつけられるすべての人の中心である。なぜなら、わたしたちが中心に近づけば近づくほど、わたしたちは感情において、同情において、愛においてますます近くなり、イエスのご品性とみかたちへと成長する。神は、人を偏り見られることがない。

イエスは地上の華やかさの無価値なことをご存じであったので、その見せびらかしには何の注意も払われなかった。その魂の尊厳、ご品性の高さ、原則の高尚さにおいて、このお方は世の虚しい流行をはるかに超越しておられた。預言者はこのお方のことを「侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた」と描写したが（イザヤ 53：3)、このお方は地上の貴族の間で、最高位の者として評価されることもできた。もしこのお方が人間社会の最も重要な人物たちの恩寵を受け入れるために身を低くされたならば、彼らはこのお方のご機嫌とりをしたことであろう。しかし、このお方は人間の賞賛を望まれることなく、あらゆる人間の感化力とは無関係に動いておられた。ありとあらゆる人間の偉大さの多様性と区別における富や地位や世的な階級は、天の誉れと栄光を後にし、しかも地上の豪華さを持たず、贅沢にふけらず、へりくだりの他は何の飾りをも見せることのなかったお方にとって、どれもたくさんある小さな程度のことにしかすぎなかった。

低い地位にある人々、貧困にしばられ、心配事に押しつぶされ、労苦の重荷を負っている人々は、このお方のご生涯と模範の中に、イエスが彼らの試練を知らず、彼らの環境の重圧をご存じなく、彼らの欠乏と悲しみの中で彼らに同情することがおできにならないと考えさせるような理由を見出すことはできなかった。このお方のつつましい日ごとの生活の低さは、このお方の低い生まれと環境に調和していた。無限の神の御子、すなわち命と栄光の主は、へりくだりのうちに最

も低い者の生涯にまで下りて来られた。それによって、だれ一人として自分がこのお方のご臨在から閉め出されていると感じることがないためである。このお方はすべての人に接触できるようになさった。だれか気に入った少数の者だけを選んで他のすべての人を無視するようなことはされなかった。保守主義が、人を自分の同胞から離れさせて閉じこもるとき、特にそれが神の子らだと公言する人々の間で見られるとき、神の霊は悲しまれる。

キリストは、神性と結合するときに、どのような完全な人性となれるかについて世に模範を与えるために来られた。このお方は、ご自分の憐れみと同情と愛の表れにおいて、ご自分の新しい偉大さの局面を、世に提示された。人類の頭としてこのお方は、神聖な統治の科学における教訓を人々にお教えになった。それによって、このお方は憐れみと正義の和解の義を表された。憐れみと正義の和解は、いかなる罪との妥協も伴わず、いかなる正義の要求を無視することもなかった。かえって各々の神聖な特質にその場所を与えることによって、憐れみは、その慈愛を滅ぼしたり、その同情深い性質を捨てたりすることなく、罪深い悔い改めない人間の刑罰において行使することができ、また正義はその高潔さを犯すことなく、悔い改めた不法者を許すことにおいて行使することができるのであった。

わたしたちの大祭司キリスト

これはみなキリストが人間の性質をつかみ、また神聖な特質にあずかっておられ、人性と神性の間にご自分の十字架を立てて罪人を神から引き離した深淵に橋をかけて下さったためにできるのであった。

「確かに、彼は天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた。そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。主ご自身、試錬を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」（ヘブル 2:16-18）

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試錬に会われたのである。」（ヘブル 4:15）

「大祭司なるものはすべて、人間の中から選ばれて、罪のために供え物といけ

にえとをささげるように、人々のために神に仕える役に任じられた者である。彼は自分自身、弱さを身に負うているので、無知な迷っている人々を、思いやることができると共に、その弱さのゆえに、民のためだけではなく自分自身のためにも、罪についてささげものをしなければならないのである。かつ、だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。同様に、キリストもまた、大祭司の栄誉を自分で得たのではなく、『あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ』と言われたかたから、お受けになったのである。また、ほかの箇所でこう言われている、『あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である』。キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいれられたのである。彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり」（ヘブル 5:1-9）

イエスは、人間の努力と結合させるための道徳力をもたらすために来られた。そして、どんなことがあっても、このお方に従う人々はキリストを見失ってはならない。このお方は万事における彼らの模範であられる。このお方は、「また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします」と言われた（ヨハネ 17:19）。イエスはご自分の子らの前に真理を提示される。それはそれを見ることができるように、そしてそれを眺めることによって変えられるように、すなわちこのお方の恵みによって、不法から従順へ、不純から純潔へ、罪から心の聖潔と生活の義へと移されるためである。

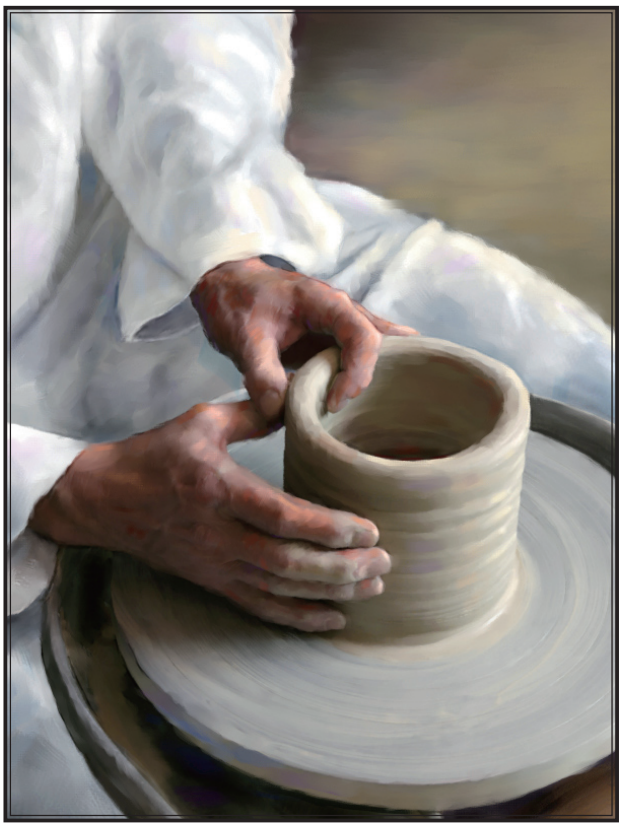
天における特別な学級

贖われた人々の中である者は、人生が終わる間際にキリストをつかむことがあった。そして死んだときに救いの計画を完全には理解していなかった人々に、天で教えが与えられるであろう。キリストは贖われた人々を命の川のほとりへ導き、彼らにこの地上にいたときには理解できなかったことを明らかにして下さるのである。

セレクテッド・メッセージ 1 巻 36 章　257-262

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



11月 「自己が空にされた謙遜な器」

わたしたちのための祈り

「地の果なるもろもろの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ。」（イザヤ 45:22）

天におられます父なる神様、わたしたちの唯一の避けどころ、唯一の助け主、わたしたちを自分自身から救うことのできる唯一のお方であるお父様のみ許へ、わたしたちは今夕まいります。……お父様だけが心の鉄の帯を砕くことがおできになります。目の見えない者に何が罪であるかを識別させてくださいます。すべての魂が天の家族の中に移される準備ができる前に、この世で持ち、表さなければならない品性の現実性を理解力に印象づけることのおできになる方です。ああ、お父様、お父様、民を襲う盲目、恐ろしい盲目、彼らはお父様がどのような品性を受け入れることができ、どのような品性を拒まざるを得ないかを見分けません。主よ、心と思いに働きかけてくださいますようお願いします。ああ、罪の恐ろしい性質をすべての者に印象づけ、お父様が罪をどのように思っておられるかをすべての者に印象づけてください。

ああ、お父様、お父様、あなたは世を非常に愛してくださって、そのひとり子を恥辱の死に渡してくださいましたが、それはこのお方を通して世が永遠の命を持つことができるためでした。人類家族に、この地上で正しいことをすることにおいて自分たちを教育する特権を与えてくださいましたが、それは上なる罪のない家族と一つになり、お父様の王国で永遠に住む準備ができるためです。わたしたちは、過ぎ去りつつある機会と特権を見ながら、心はますますかたくなになり、ますます感覚が鈍くなっています。ああ、むち打たれたイエス・キリスト、すなわちすべての人に神の家族と一つになって生きることを可能にするために十字架の苦悩を味わわれたイエス・キリストのゆえに、わたしたちは祈ります。―ああわたしたちは祈ります。わたしの救い主、この心のかたくなさを壊してくださいますようお祈りします。魂をとかし、屈服させてくださいますようお祈りします。（説教と講和 1 巻 378,379）

おごりを避ける

「主を恐れるとは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪しき道と、偽りの言葉とを憎む。」（箴言8:13）

神は今の時代に大いなる光と知識をご自分の民に与えておられる。このお方はご自分の僕がへりくだってご自分により頼む限り、彼らに力と知恵をお与えになる。彼らは変わらぬ方針のもとに、キリストの宗教を他の人々に推奨することができる。しかし自己尊重、おごり、厳しさをほしいままにするために自分の立場を利用する人々は、神のみ働きに疑いを投げかけ、自分たちの悪意のある疑惑や不信仰に懐疑的な言い訳をする。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1880 年 10 月 7 日）

人の性質の中には一方の極端から完全にもう一方の極端に走る傾向がある。多くの者が狂信者である。彼らは宗教にとって誤りである火のような熱心さで燃えるが、品性が弟子の身分の真の試金石である。彼らにはキリストの柔和があるのであろうか。このお方のへりくだりとかぐわしい慈悲心があるのであろうか。魂の宮は自尊心、おごり、利己心、あら捜しが空になっているであろうか。もしそうでないなら彼らは自分がどのような精神態度であるのかわかっていない。真のキリスト教は神の栄光のために多くの実を結ぶことで成り立っていることに気づいていない。（教会への証 5 巻 305,306）

もしあなたが自分自身についてあまりにも高い意見をもつなら、あなたは自分の働きが実際よりももっと重要であると考えることであろう。そして、おごりの瀬戸際で個人の独立を訴えることであろう。もしあなたがもう一方の極端に行き、自分自身についてあまりにも低い意見をもつなら、自分が非常に劣っていると感じ、あなたが善のために持つことのできる感化力を非常に制限する劣等感の印象を残すことになる。あなたはどちらの極端も避けなければならない。感情があなたを支配してはならない。状況があなたを左右してはならない。あなたは自分自身に正しい評価をし、両極端からの保護策を立証するものとなることができる。あなたはむなしい自信なしに威厳をもつことができ、自己尊重や個人的な独立を犠牲にすることなくへりくだって、相手に譲ることができる。そして、あなたの人生は、生涯のより低い歩みにおいても高い歩みにおいても他の人々に大きな感化力を及ぼすことができる。（同上 3 巻 506）

怠惰の悪

「見よ、あなたの妹ソドムの罪はこれである。すなわち彼女とその娘たちは高ぶり、食物に飽き、安泰に暮らしていたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかった。」(エゼキエル 16:49)

もしあなたの子供たちが労することに慣れていないなら、彼らはすぐに疲れてしまう。脇腹が痛い、肩に痛みが、手足がつかれたと文句を言い、あなたは同情してその働きを自分で行うという危険がある。……無活動状態は子供たちの脇腹の痛み、肩の痛みの最も大きな原因である。……

青年のほとんどが真の健全な精神と良識を示さない。彼らは心に特別な目的を持たないで、蝶のような生活を送る。この種の世俗的な者がともに集うと、あなたの耳に入るものは皆衣服または何か軽薄なことについての思慮のないわずかな意見であり、それから自分たちが非常に利口であると考える彼ら自身の意見を聞いて笑う。これが年配の人々の面前で行われ、これらの人々は自分たちの年齢への尊敬の欠如に悲しい思いをする以外にない。これらの青年は控えめと行儀のよさという感覚が全く失われているように思われる。それにもかかわらず彼らが教えられてきた方法は、それが立派な礼儀作法の極みであると彼らが考えるように導くのである。

この精神は伝染病のようであり、神の民は自分の子供たちのための交際仲間を選び、これらのむなしい世俗の人々との交際を避けるよう教えるべきである。母親は娘たちを台所に連れてゆき、忍耐強く教育しなさい。彼女たちの性質はそのような労働にもっと適したものとなり、その筋肉は健康な状態と力を得、その瞑想はその日の終わりにはもっと健康的でもっと高められたものになる。……子供たちが働こうが働くまいが大したことではないと彼らにほのめかしてはならない。彼らの助けが必要であり、彼らの時間は価値があって、あなたは彼らの働きに頼っていると教えなさい。……

多くの罪が怠惰の結果である。活動的な手と思いは敵がほのめかすどの誘惑にも注意を払う時間はないが、怠惰な手と脳はサタンが支配する準備ができている。思いは適切なことに占められていないと適切でない事柄にこだわる。両親は怠惰は罪であることを子供たちに教えなければならない。(教会への証1巻 394,395)

他の人々に語る際の知恵を得る

「高ぶりはただ争いを生じる、勧告をきく者は知恵がある。」（箴言 13：10）

神の愛が魂を満たさなければならない。さもないと義の実は現れない。虚栄や自尊心、権力や利益にふけるのは安全ではない。あなたにいらだち、非難し、つぶやく力があり、またこのような方法であなたに虐待される人々があなたを止めることができないがゆえに、そのようにするのは、利己心の最も悪い面である。家族の輪の中で、教会の中での不一致の原因は利己心である。クリスチャンでない心は、それらが大きく拡大して見えるまでは存在せず、ほとんどこだわる事柄でもない大きな過ちを、自分は他人のうちにはっきり見ることができると考える。ある者には非常に大きく思えるこれらのささいな事柄を解決する働きを、神はご自分に従う者自身が行うようにと残しておかれる。だれも教会内で、それによって多くの者が汚される苦い根となるまで、不幸な不一致を残さないようにしよう。キリストが心のうちにおられるとき、神と人への愛によって心は非常に和らげられ抑制されるので、いらだち、あら捜し、争いはそこに存在しない。心のうちにあるキリストの宗教は、それを持っている者に主導権を求めているそれらの激情への完全な勝利を得させる。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらの〔必要な〕ものは、すべて添えて与えられるであろう」と仰せになった（マタイ 6：33）。この約束は決してなくならない。わたしたちは神の好意が与えられる条件に従うまではこのお方の好意を楽しむことはできない。そうすることによって、世が決して与えることも取り去ることもできない平安、満足、知恵がわたしたちに訪れる。教会としてあなたがたが神の祝福を豊かに受けたいのであれば、個人的にあらゆる考え、計画、働きにこのお方を初めとし、終わりとし、最高としなければならない。神への従順はクリスチャンの最初の義務である。へりくだった思いと感謝する心はわたしたちをささいな試練と現実の困難を超越させる。わたしたちが主人であるお方の奉仕に熱心さ、活発さ、用心が少なくなればなるほど、思いは自己に集中し、モグラ塚を困難の山に拡大する。無礼がもくろまれていない時でさえ自分は傷つけられているとわたしたちは感じる。（教会への証 4 巻 610，611）

代わりに愛を選ぶ

「ひそかにその隣人をそしる者をわたしは滅ぼします。高ぶる目と高慢な心の人を耐え忍ぶことはできません。」（詩編 101：5）

イエスのご臨在を退かせる、ありふれた、安っぽい、地上の事柄を思いに夢中にさせないようにしよう。教会の命はキリストから伝わっており、わたしたちが命を与える力と調和して働き、自己を見失い、最も聖なる信仰でお互いを強めるとき、わたしたちは教会を助ける。

神は、わたしたちの見解と厳密に合わないがために、わたしたちが受け入れない器をお選びになるかもしれない。彼らは、まさに完全なものとして示された方針では働かない。そして、聖霊が彼らと共に働いて下さるので、彼らを神に任せると、多くの人々は困難を提示し始め、道をふさぎ、彼らが今までになされたことのない働きをしているのを見るからといって、嘆かわしい感情をいだく。そのとき品性の批判とちょっとしたつぶやきをかき集めること、あら捜しと中傷、ささいな事件とできごとを重大な罪に拡大することが始まる。これはわたしたちが弱くなるまで教会内で続けられ、わたしたちは物事のこの狭い秩序が変わらない限り、常に弱いままである。神の御子という尊い賜物のゆえにあなたがたが神への感謝と謝意と讃美で満たされ、羨み、嫉妬、競争心を捨て去り、真の愛と一致が存在することができるように、主があなた方すべてに何をなすべきかを示してくださることを祈る。

キリストはご自分と御父が一つであられるようにご自分の弟子たちも一つとなれるようにと祈られた。この一つは何によって成り立つのであろうか。この一つは、一人びとりが同じ性質、同じ気性を持ち、本当に同じ方向で考えるからといって存在するのではない。すべての者に同じ程度の知性があるのではなく、同じ経験があるのでもない。教会内にはさまざまな賜物といろいろな経験がある。現世の事柄には取扱いの方法に非常に多様性があるが、働きの方法や、賜物の実践におけるこれらの多様性が、意見の相違、不調和、あつれきを造りだすのではない。（原稿リリース 11 巻 265，266）

へりくだる者には知恵がある

「高ぶりが来れば、恥もまた来る。へりくだる者には知恵がある。」（箴言 11：2）

わたしたちは、人々の思いが何か新しいことに絶えず広がっている時代に生きている。この願望は、正しく導かれ適切な制限内に保たれているなら推奨できる。神は創造の御業の中で思想を刺激し徹底的な研究を激励するのに十分なものをわたしたちに与えておられる。このお方はわたしたちが鋭敏でなく、好奇心が少なく、知性的でないことをお望みにならない。しかしわたしたちは、自分たちの向上心すべてにおいて、研究すべてにおいておごりは偉大なことではなくうぬぼれは知識ではないことを覚えていなければならない。人間の自尊心は力強さではなく弱さの証拠である。それは知恵ではなく愚かさを表す。過度に理由を高めるのはそれを下げることになる。人間を聖なるものと張り合う立場に置くのは軽蔑に値する。

人はどのようにして神の前に正しくあり得ようか。これは人類に関する最も大きな質問である。人間の議論の筋道は答えを見つけることができるであろうか。否、啓示だけがこのもっとも重要な問題を解き、人の人生の道に光を注ぐことができる。それでは、光の大いなる唯一の源、義の太陽からそれ、人間の知恵という弱々しい不確かな光に従うとはなんと愚かなことであろうか！（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1886 年 1 月 19 日）

もし若者が自然界で神の輝かしいみわざを研究し、そのみ言葉のうちに表された至上権と権威を研究したいなら、彼らはどの分野の研究からでも、機能は活気づけられ、高められる。活動力はおごりと同質になることなく受け入れられるであろう。神の力の驚異を熟視することによって、思いはすべての教えの中で最も困難であるが最も有益であること、人間の知恵は無限のお方とつながっていない限り、キリストの恵みによって聖化されていないかぎり愚かなものであることを学ぶ。

ご自身が神であって、造り主と被造物、無限のお方と有限な者をつなぐ事業における神のいとし子の働きは、生涯にわたってわたしたちの思想を十分に専念させる主題である。キリストのこの働きは、失われ滅びつつあるこの世の者を救うだけでなく、罪がなく忠実な他世界の住民にそれを確認させるべきである。このお方は不従順な者が神に対して忠誠に戻るための道を開かれた。（同上 1881 年 1 月 11 日）

品性の恐るべき特徴

「高ぶりは滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ。」（箴言 16:18）

使徒〔パウロ〕は、この終わりの時代に、人々は「耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、……教師たちを寄せ集め」るであろうと宣言している（テモテ第二 4:3）。なぜなら、彼らは耳ざわりのよい話を聞きたいからである……〔このような偽りの宗教教師たち〕は、信心のかたちをもち、一見魂の益のために労しているように見えるが、その一方心では、強欲で、利己的で、安逸を愛し、自分自身の献身していない心の衝動に従っている。彼らはキリストとその教えに対立しており、キリストの柔和とへりくだった精神に欠けている。

終りの時代のための聖なる真理を担っている説教者たちは、すべてこれらのこととは反対の者でなければならない。そして、自分の実際的な信心の生活によって、偽りと真の羊飼いの間に存在する区別がはっきりとつけられなければならない。良い羊飼いであられるお方は、失われている者を探し、救うために来て下さった。このお方はご自分の働きの中で、ご自分の羊を愛するその愛を表してこられた。羊飼いの長の下で働くすべての羊飼いは、このお方の特徴をもっているのである。彼らは柔和で心のへりくだったものとなる。幼子のような信仰が魂に休息をもたらし、また愛によって働き、いつも他の人々のために関心をもっている。もしキリストの御霊が彼らのうちに宿っているなら、彼らはキリストに似た者となり、キリストの働きをする。キリストの牧師だと公言する多くの者は、自分たちの主人を誤解してきた。彼らはキリストに仕えていると主張するが、自分たちが呼び集められているのが、サタンの旗の下であることに気がついていない。彼らは世的には賢く、争いと見せびらかしを渇望し、偉大な仕事をしていると見せかけようとする。しかし、神は彼らに用はない。行動を生じさせた動機が、その働きに性質を与えるのである。人は欠陥を見分けられないかもしれないが、神はそれに注目なさる。

真理の文字によって、信仰を固くとらえ、最終的に救われる魂が確信するであろう。しかし、彼らに真理を提示した利己的な説教者は、彼らの改心のために、神のみ前に功績を得ることはない。このお方はシオンの城壁の見張り人だと公言していながら、彼が不忠実であったことを裁かれる。心の誇りは品性の恐るべき特徴である。「高ぶりは滅びにさきだち」（箴言 16:18）。これは、家族においても、教会においても、国家においても事実である。（教会への証 4 巻 376, 377）

誇る者に目がくらまない

「主をおのが頼みとする人、高ぶる者にたよら……ない人はさいわいである。」（詩篇 40:4）

主の民だと公言する人々から、世の知恵があまりにも高く評価され、上よりの知恵があまりにも求められていない。人々はクリスチャンの教理の知識をもっているかもしれないが、なおクリスチャン経験はほとんど理解していない。多くの人々は世の事柄には、鋭く、利発で、機敏であるが、その一方で彼らは神の奉仕においてはほとんど関心も機転も精力も表さない。彼らは、サタンの考案を識別するために見張ったり、どのようにして敵に作戦に打ち勝つかを研究したりすることに、自分たちの鋭さと利口さを働かせない。彼らは賢明な計画を立て、神のみ事業を前進させるべく熱心で計画的な努力を払うために、自分たちのすべての力を結集しない。世の一時的なことに働かされる知恵は、めったに霊的かつ永遠の事柄には捧げられない。こうして能力のある人々は、自分たちが霊的であるよりは肉的であるという証拠を示している。

すべての人は、その職業が何であろうと、神のみ事業を自分の第一の関心事とすべきである。彼は自分のタラントを主のみ働きを前進させるために働かせるばかりではなく、この目的のために自分の能力を培うべきである。多くの人々は、自分が世において成功する働き人となるため、商売や職業を身につけるのに、数か月また数年を捧げる。それでいながら、自らを主のぶどう畑において成功する働き人となすこれらのタラントを培うためには、特別な努力を払わない。彼は、自分の力をゆがめ、自分のタラントを乱用する。彼は自分の天の主人に対する無礼を示してきた。これは神の民だと公言する者の大きな罪である。彼らは自らに仕え、また世に仕える。彼らは如才なく、成功した資産家だという名をもっているかもしれないが、神がご自分の奉仕のために自分に与えて下さったタラントを用いることによって増し加えることを怠る。世俗の機転は、働かせることによってますます強くなり、霊性は、不活動によってますます弱くなる。

今はこれらのタラントが、神のみ事業において用いられるならば、このお方の王国を築きあげるのに、大いなる効果をもたらす時である……

わたしたちは永遠のために築いている。今、わたしたちがどのように建てるか注意する重要性は倍増している。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 1 月 1 日）

イエス・キリストの模範

「わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えでするのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。」（ヨハネ 5:30）

キリストの聖なる生涯と品性は、忠実な模範である。ご自分の天父への信頼は、限りがなかった。このお方の従順と服従は、無条件で完全であった。このお方は仕えられるためではなく、他の人々に仕えるために来られた。このお方はご自身の意志を行うためではなく、ご自分を遣わされた方の意志を行うために来られた。万事において、このお方は正しい裁きを行うお方にご自身を屈服させられた。世の救い主の唇からは、「わたしは、自分からは何事もすることができない」という言葉が聞かれた（ヨハネ 5:30）。

このお方は貧しくなられ、おのれをむなしくされた。このお方は飢えて、しばしば渇いておられ、そして多くの場合、ご自分の働きに疲れておられた。しかし、このお方にはまくらするところがなかった。冷たく湿っぽい夜陰がこのお方のまわりを囲むとき、地面がしばしばこのお方の寝床であった。それでいてなお、このお方はご自分を 憎む人々を祝福された。なんというご生涯であろう！なんという経験であろう！キリストに従うと公言するわたしたちは、わたしたちの主がなさったように、つぶやくことなく快活に、欠乏と苦しみに耐えることができるであろうか。わたしたちは、杯を飲み、バプテスマを受けることができるであろうか。もしそうであれば、わたしたちはこのお方の天の王国でこのお方の栄光に共にあずかることができる。もしできなければ、このお方にあずかるものは何もない。（教会への証 3 巻 107）

人々は、人間の教師から与えられる可能な限りすべての知識を得ることができる。しかし、なお神が彼らに要求なさるさらに大きな知恵がある。モーセのように、彼らは柔和と心のへりくだりと自己に信頼しないことを学ばなければならない。わたしたちの救い主ご自身は、人類のためのテストを耐えて、ご自分から何もすることができない、とお認めになった。わたしたちもまた、人性だけでは、何の力もないことを学ばなければならない。人は神性にあずかるものとなって初めて有能になる。……

自分自身を区別したいというすべての利己的な願いをわきへおこう。人間からの提案をすべて、聖霊の導きに信頼して、神の許へ持っていきなさい。すべてのきよくない野心は取り除かれるべきである。さもなければ、主は、「わたしは愚かな者の根を張るのを見た、しかしわたしは、にわかにそのすみかをのろった」と仰せになる（ヨブ 5:3）。（同上 346–348）

パウロの模範

「わたしは日々死んでいるのである。」（コリント第一 15:31）

主は、わたしたちがご自分のみ旨に従順であること、ご自分の御霊によって征服され、ご自分の奉仕のために聖化されることを要求なさる。利己心は捨て去られなければならない。そして、わたしたちはキリストが勝利されたように、自分たちの品性の一つ一つの欠点に、勝利しなければならない。この働きを成し遂げるために、わたしたちは日々自己に死ななければならない。（教会への証 4 巻 66）

自己に対する勝利のため、聖潔と天のための苦闘は、一生涯の苦闘である。絶え間ない努力と継続的な活動なくして、聖なる生活において前進すること、勝利者の冠を得ることはできない。

人間がより高い状態から堕落したという最も強力な証拠は、戻るためにこれほどまでの代価がかかるという事実である。戻るための道は、わずかずつ、毎時間、激しい戦いによってのみ、得ることができる。意志の一瞬の行為によって、人は自らの身を悪の力のうちにおくかもしれないが、これらのかせを断ち切り、より高く、より聖なる生活を得るためには、意志の一瞬の行為以上が要求される。目的が形成され、働きは始まるかもしれない。しかし、その達成には、骨折り、時間、辛抱、忍耐、そして犠牲が要求される。

数え切れないほどの誘惑にからみつかれても、わたしたちは断固として抵抗しなければならない。さもなければ征服されてしまう。わたしたちは生涯の終りになって、働きが終わっていなければ、それは永遠の損失となる。

パウロの聖化は、自己との継続的な戦いの結果であった。彼は、「わたしは日々死んでいる」と言った（コリント第一 15:31）。彼の意志と彼の願いは、毎日義務と神のみ旨に対して戦った。傾向に従う代わりに、彼は、どんなに自分自身の性質にとって十字架につけるようなものであっても、神のみ旨を行った。

神はご自分の民を一歩一歩導かれる。クリスチャン生涯は、戦いと進軍である。この戦闘において、放免はない。努力は絶えざる辛抱強いものでなくてはならない。わたしたちがサタンの誘惑に対する勝利を維持するのは、やむことのない努力によってである。クリスチャンの高潔さを、抵抗できない精力をもって求め、断固とした動かない目的をもって維持しなくてはならない。

だれも自分自身のための断固とした辛抱強い努力なくして、上に向かって生まれることはない。すべての人が自分自身でこの戦いにたずさわらなければならない。個々に、わたしたちはこの苦闘の問題に対して責任がある。（教会への証 8 巻 313, 314）

知恵の教訓

「主を恐れることは知恵の教訓である、謙遜は、栄誉に先だつ。」（箴言 15:33）

この時代に、「偽りの『知識』（誤って科学と呼ばれている：英訳）」である人間の空論のまぶしい光にくらまされている人々が多くいる。彼らは網を見分けることができず、目隠しされているかのように、やすやすとその中へ歩いていく。神は人間の知力が造り主からの賜物として保たれ、真理と義の奉仕に用いられるよう計画された。しかし、それが偶像化され、偽りの宗教の奉仕に用いるためにサタンの宮に捧げられるとき、知性は無知よりも大きな害をなす。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰ 1887 年 2 月 1 日）

自己をわきへ置き、聖霊が自分たちの心に働きかける余地をつくり、主が課される必要な訓練につぶやいたり、途中でくじけたりせずに、完全に神の奉仕のために聖化された生活を送る人の有用性には限りがない。もし彼らが主の譴責にくじけたり、心をかたくなに頑固になったりしないならば、主は、老若共に、時々刻々に、日々に教えて下さる。このお方はご自分の救いを人の子らに表したいと切望しておられる。そしてもしこのお方の選ばれた民が障害物を取り除くならば、このお方は救いの水を人間の水路を通して豊かな流れのうちに注ぎ出して下さる。

人間の学校で自分たちの教育を完成することによって、神の高められた働きのための有能さを求めている多くの人々は、自分たちが主の教えようとなさるもっと重要な教訓を学ぶことに失敗したことに気づくようになる。自らを聖霊の感動の下に従わせることを怠ることによって、また神のすべてのご要求に対する従順のうちに生活しないことによって、彼らの霊的な有能さは弱くなる。彼らは主のために成功する働きをなすために彼らが持っていた能力を失ってしまう。キリストの学校を欠席することによって、彼らは教師であるお方のみ声の響きを忘れてしまったので、このお方は彼らの道を導くことがおできにならないのである。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 346）

敬神と宗教経験は、まさに真の教育の基礎の根底にある。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育 51）

救いのために低くされ、テストされる

「あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。」（申命記 8:2）

神はご自分の民を、一歩一歩導かれる。このお方は心のうちに何があるかをあらわすように意図されたさまざまな点に彼らを導かれる。ある者は、一つの点において耐えるが、次に落ちてしまう。一つ進むごとに、心は少しずつ厳密にテストされ、試される。神の民だと公言する人々は、もし自分たちの心がこの厳しい働きに反対しているのがわかったなら、自分たちが主の口から吐き出されたくなければ、勝利するためになすべき働きがあることを確信すべきである。御使は次のように言った、「神はご自分の民の一人びとりをテストし、試すために、ご自分の働きを少しずつ厳密に進めていかれる」。ある者は、一つの点においては喜んで受け入れるが、神が彼らを次の試金石となる点に導かれると、それにひるんで、しり込みする。なぜなら、それが直接、大事にしている何かの偶像を打つのがわかるからである。ここに彼らは自分たちの心の中で、何がイエスを締め出しているかを知る機会がある。彼らは何かを真理よりも高く評価している。そして彼らの心はイエスを受け入れる準備ができていない。個々人はある一定期間、彼らがすすんで自分の偶像を犠牲にし、真の証人の勧告に注意を払うかどうかを見るためにテストされ、試される。もしだれでも、真理に従うことによって精錬していただき、自分たちの利己心、誇り、悪感情に打ち勝とうとしないなら、神の御使たちは次のように宣告する。「彼らは偶像に結びつらなった。そのなすにまかせよ」、そして自分たちの罪深い特徴を征服しないこれらの人々をそのまま悪天使たちの支配にまかせて、自分たちの働きを続けていく。すべての点に達し、すべてのテストに耐え、どのような代価を払っても勝利する人々は、真の証人の勧告に注意を払ってきた。そして、彼らは後の雨を受け、こうして昇天にふさわしいものとされるのである。

神はこの世においてご自分の民を試される。ここは、神のみ前に出るのにふさわしくされるための場所である。ここ、すなわちこの世の、この最後の時代において、人々はどの力が自分たちの心に影響を与え、その行動を支配しているかを示すようになる。もしそれが神聖な真理の力であれば、それは良い働きへ導く。それは受けるものを高め、彼をその神聖な主のように、高尚な心をもった寛容な者とするのである。（教会への証 1 巻 187,188）

すべての良きものは満たされる

「謙遜と主を恐れることとの報いは、富と誉と命とである。」（箴言 22:4）

わたしたちはイエスを日々に、時々刻々信頼する必要がある。このお方はわたしたちの日が続くと共にわたしたちの力も続くと約束された。このお方の恵みによって、わたしたちは現在のすべての重荷を負い、その義務を果たすことができる。多くの人々は将来の問題を案じて押しつぶされている。彼らは絶えず明日の重荷を今日に持ち込もうとしている。しかし、イエスは今日一日のためだけに恵みを約束しておられる。このお方は明日の思いわずらいや問題で自ら重荷を負うことがないようにと命じておられる。

自己称揚は、不信と同様に、多くの祝福をわたしたちから奪う。主はもしわたしたちがこのお方の前に自分たちの心をへりくだらせ、このお方の救いを見るときに、人ではなく、このお方に栄光を帰して、へりくだりを維持するならば、わたしたちのために働いて下さる。わたしたちは主がわたしたちを祝福して下さったときに、あまりにもたやすく自己を高めるために、自分自身から多くの祝福を奪っている。

わたしたちがキリストと密接に結合するとき、わたしたちの自信は消失する。わたしたちの自己尊重の言葉は語られずにすむ。わたしたちは自らを力強い神のみ手の下にへりくだらせる。わたしたちは祈り、信じ、親切で真実な優しい心になり、キリストがわたしたちを愛されたように互いに愛するようになる。わたしたちが真理に生きるとき、不親切な批判は死滅する。

キリスト教は、良い決心をすること、発作的で長続きのしない経験をもつこと以上を意味する。わたしたちの思想はキリストにとりこにされなければならない。着実に辛抱強くキリストのような思想が培われなければならない。熱心な祈りがなくてはならない。祈りのうちに神と格闘することによって、敵の手を弱めなさい。あなたの必要なものをキリストの名によって祈り、それから、このお方の力のうちに、自らの行動をそれに調和したものとすることによって、自分の祈りに応えなさい。あなたが自己否定のうちにキリストに従わない限り、あなたの祈りは神のみ座に届かないことを覚えなさい。キリストは自己否定の道をあなたに指し示し、次のように言われる、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」（マタイ 16:24）。このお方はご自分の要求を行おうする人々の能力のために、豊かな備えをしてこられた。（パシフィック・ユニオン・レコーダー 1902 年 6 月 5 日）

かつて戦われた中で最大の戦い

「謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」（ペテロ第一 5:5）

誇りとこの世への愛着は、霊性と恵みにおける成長にとって非常に大きな妨げとなる罠である。

この世はクリスチャンの天国ではなく、単なる神の作業場であって、ここでわたしたちは聖なる天での罪のない御使たちと一つになるのにふさわしくされる。わたしたちは絶えず思いを、高尚な無私の思想へと訓練しているべきである。（教会への証 2 巻 187）

S兄弟は、多くのことにおいて弱い。もし神が彼に隣人の正体を暴き、非難するように、また兄弟を譴責し、矯正するように、あるいは自分の敵たちに抵抗し、滅ぼすように要求なさるのであれば、それは彼にとって比較的、自然でたやすい働きであろう。しかし、自己に対する戦い、自分自身の心の願望と愛情を征服し、心の秘かな動機を探りだして、支配することは、より困難な戦いである。彼はこのような戦いにおいて忠実であることに、どれほど気乗りがしないことであろう！

自己に対する戦いは、かつて戦われた中で最大の闘いである。神のみ旨にすべてを明け渡し、自己を降伏させること、そして清く、平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ちた愛を持ちつつ、謙遜をまとうことは、簡単に達成できることではない。それでいながら、ここで完全な勝利者となることは、彼の特権であり、また彼の義務である。魂は知識と真の聖潔において新たにされることができる前に、神に服さなければならない。（同上 3 巻 106,107）

心はよろずのものより偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。宗教を公言する人々は、自分が果たして信仰のうちにいるかどうかを調べるために、自分自身を厳密に吟味しようとしない。そして多くの人々が、偽りの希望により頼んでいることは、恐るべき事実である。ある人々は何年も前の古い経験により頼んでいる。しかし、この心を探る時に引きもどされ、すべての人が日ごとの経験をもつべきときになると、彼には語ることが何もない。彼らは真理を公言することが自分たちを救うと考えているかのようである。彼らが神の憎まれるこれらの罪を征服するとき、イエスは入って来て彼らと食を共にし、彼らもこのお方と食を共にする。彼らはそのとき、イエスから神聖な力を得て、このお方のうちに成長するようになる。（同上 1 巻 188）

わたしたちのリバイバルの必要

「主よ、わたしはあなたのことを聞きました。主よ、わたしはあなたのみわざを見て恐れます。この年のうちにこれを新たにし、この年のうちにこれを知らせてください。怒る時にもあわれみを思いおこしてください。」（ハバクク 3:2）

わたしたちの間における真の信心のリバイバルが、わたしたちのすべての必要の中でもっとも大きく、最も切迫したものである。これを求めることがわたしたちの第一の働きとなるべきである。主の祝福を得るための熱心な努力がなければならない。これは神がわたしたちにご自分の祝福を注ぎたくないからではなく、わたしたちがそれを受ける準備ができていないからである。わたしたちの天父は、地上の親が自分の子供たちに良い贈り物をしたいと思う以上に、ご自分に求める人々に聖霊を与えたいと思っておられる。しかし、告白と、謙遜と、悔い改めと、熱心な祈りによって、神がご自分の祝福をわたしたちに与えると約束された条件を満たすのは、わたしたちの働きである。リバイバルは祈りに対する答えとしてのみ期待する必要がある。民が神の聖霊にあまりにも欠乏している間は、み言葉の説教を感謝することはできない。しかし、聖霊の力が心に触れるとき、与えられた説教は効果を及ぼさずにはいない。神のみ言葉の教えによって導かれ、聖霊の現れを伴って、健全な思慮分別を働かせて、わたしたちの集会に出席する人々は、尊い経験を得て、家に戻るとき、健全な感化力を発揮する準備ができるのである。

年老いた旗手たちは、祈りにおいて神とどのように格闘し、聖霊の注ぎを享受するということがどういうことかを知っていた。しかし、これらの人々は行動の舞台から過ぎて行っている。そしてだれが彼らの場所を埋めるために、登場するであろうか。起こりつつある世代はどうであろうか。彼らは神に改心しているであろうか。わたしたちは天の聖所で進められている働きに対して目覚めているであろうか。あるいは、わたしたちが立ち上がる前に、何か強制力が教会に及ぶのを待っているのであろうか。……

わたしたちは個々に働きに入らなければならない。もっと多く祈り、語ることはもっと少なくなければならない。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 121, 122）

不平とあら探しをやめ、これまでこのように無駄にするよりもさらに悪い過ごし方をしてきた時間を、主の前からの慰めの時を求めて生きた信仰の祈りのうちに過ごそうではないか。わたしたちはひとりの人のように、一致して、神の民の魂に神の恵みを下さるように、そしてこの年のうちにこのお方の働きをよみがえらせて下さるように呼び求めようではないか。（福音宣伝者 224, 225.〔1892 版〕）

引き上げられるために低くされる

「人が低くされるとき、あなたはこう仰せられる、引き上げるであろう。そして彼はへりくだる者を救われる。」（ヨブ 22:29 英語訳）

幸福になるために、わたしたちは十字架の下で自己否定を学ばなければならない。（ﾊﾟｳﾛの生涯からのｽｹｯﾁ 284）

ときには自分たちの無価値さを深く自覚して、魂を突き抜けるような恐怖感を与えることがあるが、それは神がわたしたちに対して変わられたり、わたしたちが神に対して変わったりした証拠ではない。ある種の感情の激しさを保つために思いを引き締めようと努力すべきではない。わたしたちは昨日感じた平安や喜びを今日は感じないかもしれないが、信仰によってキリストのみ手をつかみ、光のうちにあるのとまったく同様に闇のうちにあってもこのお方に信頼すべきである。

サタンは次のようにささやくかもしれない、「あなたはあまりにもひどい罪人であり、キリストもお救いになれない」と。あなたは自分が実際に罪深く、無価値であることを認める一方で、誘惑者に対して次の叫びを持って応じることができる、「贖罪の力によって、わたしはキリストをわたしの救い主として主張する。わたしは自分自身の功績ではなく、わたしを清めて下さるイエスの尊い血潮により頼む。この瞬間、わたしの魂はキリストにすがりつく」と。クリスチャン生活は、継続的な生きた信仰の生涯でなければならない。屈しない信頼、キリストへの固い信用が魂に平安と確証をもたらす。（清められた生涯 90）

もしわたしたちが自分自身の心を吟味し、自分たちの罪を捨て去り、自分たちの悪への傾向を正すことに集中しているならば、わたしたちの魂が虚無へと引き上げられることはない。わたしたちは自分を信頼せず、自分たちの力は神からであるという自覚を絶えず持つのである。

わたしたちは外からよりも中からの方をはるかにもっと恐れるべきである。力と成功を阻むものは、世からよりも教会自体からの方がはるかに大きい。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 122）

わたしたちはへりくだった心で主を求めることを怠るために、多くの豊かな祝福を失う。わたしたちが誠心をもってこのお方のみ許へ行き、わたしたちの欠点を明らかにして下さることを求めるとき、このお方はご自分のみ言葉の鏡に映して、わたしたち自身の真の姿を示して下さる。そのとき、自分自身を神がご覧になるように見てから、自分たちがどのようなありさまの人であったかを忘れて立ち去るようなことをしないようにしよう。欠点となっている自分たちの品性の特徴を厳しく調べ、それらを神のみ言葉のうちに提示されている型のようにして下さる恵みを求めようではないか。（ﾚｲｸ・ﾕﾆｵﾝ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1909 年 11 月 3 日）

わたしたちの心を整える

「人の高ぶりはその人を低くし、心にへりくだる者は誉を得る。」（箴言 29:23）

主のみ前におけるへりくだりがあるべきである。神のイスラエルは衣ではなく、心を裂くべきである。幼子のような単純さは、まれである。人の賞賛が神のご不興よりも重んじられている。親愛なる兄弟姉妹がたよ、あなたの心を整えなさい。もろい命のひもが断たれて、保護されることなく、さばきの準備ができないまま墓に下ることのないように。あなたが神とやわらぎをなし、自らを世から引き離さないかぎり、あなたの心はますますかたくなになり、また偽の支柱、すなわち想像上の準備により頼むようになって、基盤のしっかりした希望を得るには遅すぎるときになって自分の過ちを見出すことになる。

斧が木の根元におかれなければならない。誇りと世俗は教会の中で容認されるべきではない。神をご自分の民から引き離したのはこれらのものである。彼らは教会のただ中に存在する誇りと世への一致に対して今まで眠っている。誇り、貪欲、利己心、世への愛着は絶えず増し加わっている。外見は心のあらわれである。心が真理に影響されるとき、世に対する死がある。そして世に対して死んだ者は、不信者の笑いやあざけりや軽蔑によって動かされることはない。彼らは世から分離して、自分たちのご主人であるお方に似た者となりたいと切なる願いを感じる。彼らは世の流行や習慣をまねるようなことをしない。彼らの前にはいつも神に栄光を帰し、不死の嗣業を得るという高尚な目的がある。そしてこれに比べれば、地上の性質をもつすべてのものは、無価値なものとして沈んでしまう。

あまりにも多くの人々が聖書をなおざりにする。彼らは聖書をなすべきほどに自分たちの研究課題、また生活の規則としない。特に青年たちはこの怠慢の罪が深い。彼らのうち多くは、他の本ならほとんど何でも読む時間を十分に見出すが、永遠の命を指し示す尊い本、終わりの日に彼らを裁く重要な本は、まったくと言ってよいほど研究しない。……すべての人が神の民の前にある激しい戦いにおいて自分自身の魂を強めるために、自分たちの希望の理由を理解しなければならない。これなしには、わたしたちは足りないことがあらわれ、堅固さと決意とをもつことができない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 9 月 9 日）

再び生かされた霊と心

「あなたの民が、あなたによって喜びを得るため、われらを再び生かされないのですか。」（詩篇 85:6）

主の律法を憎む人々が、真理を受けて真理に生きるための道徳的な勇気をもっている人々に対してわめきちらし、自分たちののろいを注ぎ出すがままにさせておきなさい。主がわたしたちの力であられる。わたしたちにとって、自己を打ち立てるのではなく、わたしたちのうちに、またわたしたちによって、またわたしたちを通してみ旨をなしていただくのが安全である。主が再び生かして下さる、悔いてへりくだる霊を失わないようにしなさい。（牧師への証 250）

わたしたちの世には、わたしたちが思うよりも神の王国に近い人々が大勢いる。この暗い罪の世において、主は多くの尊い宝石を持っておられ、彼らに主はご自分の使命者たちを導かれる。神はご自分の信じる者たちをご自分の道具としてお用いになり、彼らを通して命のパンに飢えている魂に奉仕をなさる。神の祭壇からの炭火に触れられたくちびるよりこぼれる希望と励ましの言葉は、疲れて悩む人々を再び生かし、慰める。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1904 年 5 月 12 日）

自己を視野から取り除こうではないか。キリストだけが高められるべきである。「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し」た方に、すべての目が向けられ、すべての心から讃美がのぼるように（黙示録 1:5）。

主を恐れる者の生活は、悲しい、いんうつな生活ではない。キリストのない生活こそ、顔つきを憂うつにし、人生を嘆きと悲しみに満ちた生涯とするのである。うぬぼれと自己主義にみちている者は、キリストとの生きた個人的交わりを持つ必要を感じない。まだ岩なるキリストの上に落ちていない心は自分の完全さを誇る。人びとは、威厳の保てる宗教を欲する。彼らは、自分たちのさまざまな性質を持ったまま、ゆうゆうと歩ける広い道を望む。彼らの利己的で人びとにもてはやされ、ほめられることを好む気持ちが、救い主を心からしめ出すことになり、キリストのないところは、いんうつと悲哀の場所となってしまう。キリストが魂の中に住んでくださるならば、それは喜びの泉となる。神を受け入れる者はすべて、神のことばの主題が喜びであることをさとるのである。（キリストの実物教訓 142,143）

わたしたちの焦点を合わせる

「あなたの目は、まっすぐに正面を見、あなたのまぶたはあなたの前を、まっすぐに見よ。あなたの足の道に気をつけよ、そうすれば、あなたのすべての道は安全である。右にも左にも迷い出てはならない、あなたの足を悪から離れさせよ。」（箴言 4:25–27）

すべての者は、「わたしは救われるために何をすべきですか」と問う必要がある。神はへりくだった、悔いた心、すなわち神のみ言葉に震える心を要求しておられる。わたしたちは、唯一神聖な祭壇からのみ、天のたいまつ、すなわち受け入れるならば、自分たちの無能さに対する十分な見解を与え、キリストの尊厳と栄光をわたしたちにあらわすたいまつを受けることができる。（バイブル・エコー 1896 年 7 月 20 日）

神が大いなる光をもって祝福してこられた男女は、自分の魂の敵のへつらうような偽りによって、自ら迷い出ることを許してしまうのであろうか。神の戒めへの不従順を伴うときに、彼らは名声、世的な誉れや繁栄を求めるのであろうか。彼らは自分たちの永遠の利益をゆずり渡し、自分たちの長子権を一杯のあつものと売り渡してしまうのであろうか。わたしたちは目覚めて、わたしたちを肉の安全というゆりかごの中で寝かしつけてしまう、世の危険な昏睡状態を振り払わないのであろうか。神の戒めを踏みにじる人々のあざけりにおびえるあなたがたは、誘惑に屈して臆病者になり、あなたの稀有（けう）な信仰を笑う隣人の非難に耐えるよりも、神の恩寵を失うのであろうか。神の御霊はいつまでも人と争われることはない。招きを軽んじる者たちは、神が自分たちの救いのために送られる最後の憐れみのメッセージをあざけり、祝福の晩餐を味わうことはできない。憐れみ深い救い主イエスは、わたしたちの世に「さあ、おいでください。もう準備ができましたから」という招待状をすべての人に送ってこられた（ルカ 14:17）。あなたは招待を拒んだユダヤ人の真似をするのであろうか。わたしたちに招きは与えられている。そして主はあなたがたがご自分の言葉に恐れおののき、それによってご自分があなたの心のうちに望みと信仰と聖なる信頼をともすことができるようにと望んでおられる。このお方はあなたにまず神の国と神の義を求めよ、とお命じになり、そのとき、必要なものはすべて添えて与えられると約束しておられる。このお方はあなたの前にパラダイスの栄光を明らかにして下さる。そこで問われるのは、あなたがこのお方の招きを受け入れるかどうか、ということである。（レビュー・アンド・ヘラルド 1895 年 11 月 5 日）

主は聞かれる

「主は……苦しむ者の叫びをお忘れにならない」（詩篇 9:12）

信仰のうちに捧げられる一つ一つの祈りは、嘆願者を疑いと人間の感情に超越させる。祈りは闇の権力との戦いを再び始め、忍耐強く試練に耐え、キリストの良き兵士として困難に耐える力を与える。

あなたが自分の疑いや恐れに相談している間、あるいは自分が信仰をもつ前にはっきりと見えないことを全部解決しようとしている間は、あなたの困惑はただ増し加わり、深まっていくばかりである。もしあなたが、ありのままの無力さと依存とを感じて、神のみ許へ行き、へりくだった信頼の祈りのうちに、この無限の知恵をもち、被造物のうちにすべてをご覧になり、ご自分のみ旨とみ言葉によってすべてのものを統べ治められるお方に、あなたの必要を知らせるならば、このお方はあなたの叫びに応じることがおできになるし、そうしてくださるのであり、またあなたの心の中とあなたの周り一面を光が照らすようにして下さる。なぜなら、真心からの祈りを通して、あなたの魂は無限の方の思いとつながりを持つようになるからである。自分の贖い主のみ顔があなたの方へ憐れみと愛のうちに寄せられているとき、目立つような証拠はないかもしれないが、それでもその通りなのである。このお方の目に見える手の感触はないかもしれないが、しかし、このお方のみ手は愛と憐れみ深い優しさのうちにあなたの上におかれている。……

あなたは絶えず見張っている必要がある。さもないとサタンが自分の狡猾さを通してあなたを欺き、あなたの思いを堕落させて、矛盾とはなはだしい闇へと導くことになる。あなたの見張りは、神への謙遜な依存の精神によって特徴づけられているべきである。それは誇り高い、自己依存の精神ではなく、自分自身の弱さに対する深い自覚と、神の約束を信じる幼子のような信頼をもってなされるべきである。（福音宣伝者 320,321）

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」（ピリピ 2:12）。あなたが間違いを犯すことがないように、また主のみ名を汚すことがないように、恐れなさい。このお方には救う力があることを信じて、このお方に叫び求めなさい。これがわたしたちに欠乏している謙遜である。人間の目の前に自らを並べ立てて、義に対する称賛を勝ち取ろうとする、高ぶった謙遜ではない。わたしたちは医者であり回復者であられるお方を必要としている。そしてわたしたちがこのお方の恵みを嘆願しながら、キリストの許へ来るとき、慰め主は「わたしの平安をあなたがたに与える」というこのみ言葉をわたしたちの魂の中に吹き込んで下さるのである（ヨハネ 14:27）。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰ 1892 年 6 月 1 日）

永遠の最善を目指して

「へりくだって貧しい人々と共におるのは、高ぶる者と共にいて、獲物を分けるにまさる。」（箴言 16:19）

すべての教派の伝道において、あまりにも自己が多く、あまりにもイエスが少ない。主は、ご自分のメッセージを宣布するのに、謙遜な人をお用いになる。キリストが王の偉大さのうちに、地上の偉人たちを伴う壮麗さをもって来られたならば、多くの人々がキリストを受け入れたことであろう。しかし、ナザレのイエスは、外見の栄光の誇示をもって感覚をくらますことなく、またこれを彼らの敬神の土台とはなさらなかった。このお方はへりくだった人間として、人類の贖い主と同時に、教師また模範者となるために来られたのであった。このお方が壮麗さを奨励されたなら、またこのお方が地上の偉人たちの随行団を従えてきたら、どのようにして謙遜をお教えになることができたであろう。どのようにして、山上の垂訓でなされたように燃えるような真理を提示することがおできになったことであろう。このお方の模範は、このお方がご自分に従うすべての者に模倣することを望まれる模範である。もしこのお方が高められ、地上に王として住まわれたなら、人生における身分の低い者たちの希望はどこにあったことであろう。イエスは世の人の必要を、彼ら自身よりもよく知っておられた。このお方は天の装いをまとった御使として来られたのではなく、人として来られたのであった。しかしなお、ご自分の人性に、生来固有の力と、人がこのお方を愛しながらも畏敬を覚える偉大さとを結合しておられた。このような麗しさと、このような気取らない装いをもっておられながら、このお方は人々の間を、天来の王の持つ尊厳さと力をもって行動されたのであった。（医事伝道 22, 23）

あなたは、柔和で心のへりくだったキリストから学ぶために招かれている。なんと尊い教訓よ！もしよく学ぶならば、それは人生全体を変えるのである。（教会への証 2 巻 188）

わたしたちが、キリストが働かれたように働くためには、自己が十字架につけられなければならない。それは痛みを伴う死である。しかし、それは命、すなわち魂にとって命である。（教会への証 6 巻 125）

わたしたちの唯一の安全は、一瞬一瞬を神の恵みによって保護されていること、そしてわたしたちが悪を善と言い、善を悪と呼ぶことのないように、自分自身の霊的な視力を取り除かないことにある。……

わたしたちの努力、自己否定、辛抱は、わたしたちが追い求めている目的の無限の価値に見合うものでなければならない。（福音宣伝者 205[1892 版]）

悔悟をもって来る

「この所と、ここに住む者を責める神の言葉を、あなたが聞いた時、心に悔い、神の前に身をひくくし、わたしの前にへりくだり、衣を裂いて、わたしの前に泣いたので、わたしもまた、あなたに聞いた、と主は言われる。」（歴代志下 34:27）

一人びとり個々の教会員が岩なるキリスト・イエスの上に建てる必要がある。すべての人の霊的な基礎をねじり、極限まで試すことになる嵐が起こりつつある。であるから、砂の寝床を避けなさい。岩を探し求めなさい。深く掘りなさい。あなたの基礎を確かなものにしなさい。建てなさい、ああ、永遠のために建てなさい！涙をもって、心からの祈りをもって建てなさい。（教会への証 5 巻 129, 130）

イエスはそれほどの価を払ってあがなった者が、敵の誘惑にもてあそばれるのをお望みにならない。彼はわたしたちが負けて滅びるのをお好みにならない。ししの穴でライオンの口をふさぎ、忠実な証人と共に燃ゆる炎の中を歩まれたキリストは、それと同じように喜んで、わたしたちの性質のすべての思いを征服してくださるのである。今日、彼はあわれみの座に立って、その助けを求める人々の祈りを神にささげておられる。キリストは悔いて泣く者をひとりとして、退けるようなことをなさらない。ゆるしと回復を求めて主のもとに来るすべての者を、惜しみなくゆるしてくださる。キリストは知っておられることを全部人にはお告げにならないが、恐れる魂に勇気を持つようにお命じになる。望む者は神の力をつかみ、キリストと和らぐことができ、主もまた彼と和らがれるのである。

イエスは、避け所を求めて来る魂を告発と口論から、救ってくださる。人間も悪天使もこれらの魂を非難することができない。キリストは神であり、また人であるご自分の性質に、彼らを結合させてくださる。その人々は、神のみ座から出る光の中に立ち、罪を負う偉大な御方の側に立つのである。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 60,61）

危機はわたしたちに迫っている。わたしたちは今、家庭において、涙と断食と祈りをもって神を求めている必要がある。（説教と講和 2 巻 70）

わたしたちは幼子のように神のみ許へ来なければならない。そしてわたしたちが自分の貧しさと弱さを自覚するとき、それをわたしたちにとって何の力にもならない人に話すのではなく、神に話さなければならない。なぜなら、このお方はわたしたちのために何をなさるべきかをまさにご存じだからである。（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｴｺｰおよびｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892 年 6 月 1 日）

わたしは主によって誇る

「わが魂は主によって誇る。苦しむ者はこれを聞いて喜ぶであろう。」(詩篇 34:2)

他の人々が、あなたがイエスと共にいて、そのお方から学んだ者であることを知るようになるため、あなたの管理職とあなたの奉仕とあなたの扱うすべての仕事が、厳格な正直さ、および真理の聖化する感化力によって特徴づけられるものとしなさい。あなたのなすすべてのことにおいて忠実な者となりなさい。一つの利己的で貪欲な行為も、天の書のあなたの名前のところに記録されないようにしなさい。あなたが神の子であると公言する一方で、実は世に仕えるようなことを許してはならない。心と魂と思いと力をもって神に仕えなさい。そのとき、天の御使たちはあなたのそばに来て、敵に対してあなたのために旗印を掲げて下さる。

あなたの贖いのためにご自身を下さったお方の奉仕に、あなたの心と命を尽くして捧げなさい。敵を失望させなさい。彼の計画を実行するための彼の道具となることを拒否しなさい。サタンがあなたに提供し、もし受け入れるならあなたの宗教経験にとって呪いとなることがわかる資金的な利便に背を向けなさい。そのとき、あなたは心の清さをもって次のように言うことができる、「わが魂は主によって誇る」(詩篇 34:2)。あなたの生活の中に、欺きの発案や奇策や不正な陰謀やたくらみがないようにしなさい。他の人のうちにあれば、あなたが責めるようなすべてのことから離れなさい。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905 年 4 月 27 日)

アブラハムのように、今日も、なお、多くの人々が試みを受ける。彼らは、天から直接語られる神の声を聞かないが、神は、神のみことばの教訓と摂理のできごとによって彼らを召される。富と栄誉を約束する職業を捨てて、気の合った有益な仲間を離れ、親族と別れ、克己と困難と犠牲だけを要求するように思われる道に進むように要求されるであろう。神は、彼らに仕事をさせようとしておられる。しかし、安易な生活、友人や親族の感化は、その働きを完成するのに必要な品性の発達を妨げるのである。神は、彼らを人間的感化や援助から遠ざけて彼らに神の助けの必要を感じさせ、ただ神にだけ頼るように導いて、彼らにご自身を啓示しようとなさるのである。(人類のあけぼの上巻 124)

すべてのタラントの与え主を高める

「だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」（マタイ 23:12）

クリスチャン生涯において前進するとき、あなたはたえずキリストの満ちみちた徳の高さにまで至るまで成長していく。自分の経験において、あなたは人知を超える神の愛の長さ、広さ、深さ、高さがどのようであるかを証明するようになる。あなたは自分の無価値さを感じるようになる。あなたが品性の完全を主張するような傾向はなく、ただ自分のあがない主の完全さを高めるばかりである。イエスの知識におけるあなたの経験が徹底的で豊かになればなるほど、あなたの自己に対する見解はますますへりくだったものとなる。あなたが十字架の足元に伏して低くなればなるほど、自分の贖い主に対する見解がますますはっきりとし、ますます高められる。神を最上に愛すること、そしてあなたの隣人をあなた自身のように愛することこそ、真の聖化である。聖書の改心は、利己心が一切なく、自己称揚も、また自慢げな聖潔の主張のない、継続的かつ永続的な活動へと導く。もしあなたが真に神に改心しているならば、あなたは真理を支持する力強い説得力のある感化力を発揮するのである。クリスチャンであるということがどういう意味であるかについての知的な知識は、どこへいこうとあなたを祝福としてくれる。あなたに一タラント、二タラント、あるいは五タラントあろうと、神の恵みをむなしく受けることがないように、それらはすべて信頼して委ねて下さったお方の奉仕に捧げられる。わたしたちに与えられた光と知識にしたがって、わたしたちは他の人々の模範となるべきである。わたしたちは、世において自分たちを善のための力とし、周囲の人々を祝福し、高めるために、真理および真理の創始者であられるお方をしっかりとつかんでいなければならない。……

各々にその働きが与えれており、もし人が自分の働きを忠実さと熱心さをもってなすならば、その人は神の恵みの忠実な管理職なのである。

神はあなたのよい言葉や行いが、あなた自身に人からの讃美をもたらすように、あなたの光が輝くようにとは意図しておられない。そうではなく、あらゆる善の創始者が栄光を受けて、高められるのである。イエスはご生涯において、人間に品性の模範を残して下さった。世がこのお方を世の標準に従ってかたち造るには、どれほど力がなかったことであろう！世のすべての感化力は振り落とされたのであった。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1888 年 10 月 16 日）

わたしたちの態度を見張る必要

「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」（ヤコブ4:6）

自分の過ちを認める人には、いつでも悔い改めと改革の希望がある。しかし、ある者はあまりにも誇りが高く、自分たちの過ちがはっきりと指摘され、自分でそれがわかるときでさえ、自分たちが過ちのうちにいることを告白しない。全般的に、彼らは自分たちが過ちに陥りやすい人間であることを認める。しかし、彼は他人が、あたかも自分たちは過ちに陥ることがないかのように扱ってくれることを期待する。そのような告白は神には何の価値もない。……

このような種類の人々のために働くことは本当に落胆させる。彼らの誤った道が、彼ら自身にとっても他の人々にとっても危険なものとして指摘されると、彼らはそれを環境のせいにするか、あるいは自分たちこそ受けるべき譴責を他の人に受けさせることによって、言い訳しようとする。彼らはだれかが自分たちを罪人とみなそうとしているといって怒りに満たされる。彼らを譴責する人は、彼らに個人的な害を働いたものとみなされる。

それでいながら、まさに自分自身の欠点には非常に盲目な人々こそ、しばしば他人の欠点に気づくのは早く、その人の言葉を批判し、その人が何かしたことやしなかったことに対して責めるのにすばやい。彼らは自分自身の過ちの方が、神の御目にははるかにもっと嘆かわしいということに気がつかない。彼らは、キリストが自分自身の目には梁があるのに自分の兄弟の目からちりを取り除こうとする者として表された人のようである。神の御霊は隠れた罪、もし抱いていれば増し加わり、魂を破滅させる、闇の中に隠された罪を明らかにし、譴責なさる。しかし、自分自身は譴責を超越していると思う人々は、神の御霊の感化力を拒否する。他人を矯正しようと彼らが努力するとき、彼らは忍耐や親切や敬意を表さない。彼らは無我の精神、優しさ、イエスの愛を示さない。彼らはするどく、耳触りで、その言葉や精神において明らかに邪悪である。

他人に対する不親切な非難の一つ一つ、自己尊重の思いの一つ一つは、「指をさすこと、悪い事を語ること」である（イザヤ 58:9）。この自己を誇りのうちに高めること、すなわちあたかもあなたが過ちのないものであるかのように、他人の過ちを拡大することは、神にとって忌まわしいことである。（原稿リリース 15 巻 173, 174）

日ごとに高められる

「主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。」（ヤコブ4:10）

今は、贖罪の大いなる日である。わたしたちが心を燃え立たせ、不一致を生じさせる最高位を争う戦いに従事するよりも、自分たちの魂を悩ませるほうがどれほど良いことであろう。決して、悪を思ったり、語ったりしてはならない。このようにする誘惑に会うとき、自ら神の許へ行き、この忌むべき罪に打ち勝つために助けて下さるよう求めなさい。神の御目の前に自らへりくだりなさい。そうすれば、このお方があなたを持ち上げて下さる。あなたが自らをへりくだらせるとき、このお方の憐れみ深いみ手がわたしたちを引き上げて下さることを讃美しようではないか。（レビュー・アンド・ヘラルド 1901年12月31日）

起きて、神があなたを助けて下さることを感じなさい。あなたの魂の言葉を、彼は必ず栄え、わたしはおとろえる、としなさい。「わたしに」あるいは「わたしは」をしかるべきところへおき、イエスを掲げ、イエスを語りなさい。もしこのお方があなたのすべての計画の根底におられなければ、すなわちもしあなたの目が神の栄光だけに向けられ、あなた自身はこのお方のすべての戒めに従順で、永遠の現実を視野にとどめていなければ、あなたは敗北者の側にいる。

すべての人に気持ちよく親切でいられる以上のものを引き受けてはならない。あなたとあなたの重荷を担うのにありあまる能力のあるお方の力と助けがなければ、あなたの重荷はあなたを押しつぶしてしまう。キリストはご自分のくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いと宣言なさる。イエス・キリストを通してあなたは上品にくびきを負うことができる。もしあなたが自らを高めるならば、そのときあなたは主があなたを低くする必要のある場所に自らをおくことになる。もしあなたが一歩ごとに自らを低くするなら、イエスがあなたを引き上げて下さる。しかし、引き上げることはみなイエスにしていただきなさい。そして、イエスがいつもくびきの重い一方を担って下さることを覚えていなさい。そのとき、もしあなたが神と共に働く共労者であれば、あなたには一歩ごとに聖なる助け主がおられるのである。あなたは世にいながら、世のものとならずにいることができる。心が純潔で人の親切という乳に満たされ、主の道を守り、公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことができる。

あなたの生涯における一頁一頁を、朝ごとに新鮮で純潔できよいものとしなさい。それから、あなたの心を神の許へと高められた状態に保ちなさい。神に導きを求め、このお方の自由の御霊によって支えていただくことを求めた祈りを呼吸し、神の御使たちがあなたのかたわらに来て助けてくれるように、上よりの知恵を求めて祈りなさい。（原稿リリース12巻109, 110）

神はあなたをかえりみて下さる

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」（ペテロ第一 5:6, 7）

もしあなたが自分の思いわずらいをいっさい、すずめが落ちることに注目なさる〔神〕にゆだねることができるなら、あなたの信頼はむなしいものにはならない。もしあなたがこのお方の確かな約束に安んじ、あなたの正直さを保つならば、神の御使たちがあなたのまわりにいる。神のみ前に信仰のうちに良いわざをなしつづけなさい。そのとき、あなたの歩みは主によって整えられ、このお方の繁栄のみ手があなたから取り去られることはない。

もしあなたが自分自身の歩みを選ぶにまかされたなら、この問題について不十分な働きをなし、すぐにも信仰の破船に会うであろう。いっさい重荷を負って下さるお方に、あなたのすべての思いわずらいと重荷をゆだねなさい。しかし、あなたのクリスチャン品性を傷つけるようなしみは一つも許してはならない。……わたしたちにはご自分の子らをかえりみて下さり、必要な時はいつでも、ご自分の恵みを十分に与えたいと願い、与えて下さる天父がおられる。わたしたちに関わる物事の取り扱いを、自らの手に引き受け、成功のために自分自身の知恵に頼るとき、わたしたちはまず不安になり、危険と損失を予期することができる。なぜなら、それはほとんど確実にわたしたちにおとずれるからである。

十分かつ全的な神への献身がわたしたちに求められている。罪深い死すべき人間の贖い主が、わたしたちのために労し、苦しんでおられる間、このお方は自己を否定された。そしてこのお方の全生涯は骨折りと欠乏の光景の連続であった。このお方は、ご自分が地上での日々を安逸と豊富の中で過ごし、この世の生涯のあらゆる楽しみと喜びをご自分のものとすることもおできになった。しかし、このお方はそうなさらなかった。このお方はご自分の都合をお考えにならなかった。このお方はご自分喜ばせるためではなく、善を行い、他の人々を苦しみから救うために、もっとも助けを必要としている人を助けるために、生きられた。このお方は最後まで耐え忍ばれた。彼はみずから懲らしめをうけて、わたしたちに平安を与え、わたしたちすべての者の不義を担われた。苦い杯はわたしたちが飲むようにと配分されていた。わたしたちの罪がそれを混ぜ合わせたのである。しかし、わたしたちの愛する救い主は、わたしたちの唇からその杯をとって、ご自分が飲んで下さり、その代わりにご自分がわたしたちに憐れみ、祝福、そして救いの杯を提供して下さるのである。（教会への証 2 巻 72, 73）

迫害に直面するとき

「あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに寄り頼む者のために人の子らの前に施されたあなたの恵みはいかに大いなるものでしょう。あなたは彼らをみ前のひそかな所に隠して人々のはかりごとを免れさせ、また仮屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせられます。」（詩篇 31:19, 20）

非難と虚言はいつも義務を果たすのに忠実な人々についてまわる。義なる品性は、どんなに中傷や虚言によって評判が傷つけられていようと、その徳と卓越さの純潔を保つ。汚泥の中に踏みにじられても、天にまで高められても、クリスチャン生涯は同じであるべきである。そして、誇りをもった潔白の自覚こそ、それ自身の報いである。敵の迫害は、実際に評判の基となっている基礎を試す。遅かれ早かれ、悪評判が真実であるか、あるいは悪意や復讐の矢で毒されていたかが世に明らかにされる。神に仕えることにおける一貫性だけが、そのような問題の決着における唯一安全な方法である。イエスはご自分の民が、ご自分のみ事業の敵に彼らの聖なる信仰を非難するすきを与えることがないよう大いに注意を払うことを望んでおられる。どんな悪い行為もその純潔に一つの汚名をも投げかけるべきではない。あらゆる議論が目的を果たさないとき、中傷者はしばしば自分たちのいらだたしい火を悩まされる神の僕たちの上にさらす。しかし、彼らの偽りの舌はついには、彼ら自身の上に呪いをもたらす。神は最終的に義人を擁護され、罪のない者に誉れを帰し、彼らを仮屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせられるのである。

神の僕たちはしばしば非難に苦しむ。しかし、大いなる働きは、迫害、投獄、むち打ち、また死のただ中で進められていく。時代と共に迫害の性質は変わるが、原則―その根底にある精神―は、数世紀前に主の選ばれた者たちを石で打ち、たたき、殺したのと同じである。

神の御子ほど、残酷に中傷を受けて、人々の間を歩んだ人は一人としていない。このお方はすべての点において、苦々しい非難に直面された。彼らはゆえなくこのお方を憎んだ。……しかしこのお方は、非難はクリスチャンの遺産の一部であると宣言し、ご自分に従う人々にいかにして悪意の矢に対応するかを勧告しながら、静かに彼らの前に立っておられた。（預言の霊 2 巻 212, 213）

主は立ちあがられる

「主よ、立ちあがってください。神よ、み手をあげてください。苦しむ者を忘れないでください。」（詩篇 10:12）

嵐がせまっている。だから、わたしたちは神に対する悔い改めと主イエス・キリストに対する信仰を持つことによってその激しい怒りのために準備しなければならない。主は恐るべきほど地をふるうために立ちあがられる。わたしたちはいたる所に問題を見るようになる。幾千もの船舶が海の深みに投げつけられるであろう。艦隊は沈み、何百万という人命が犠牲になるであろう。火災が予期せぬところで勃発し、人の努力ではそれらを消すことができない。地の宮殿は炎の激怒の中で一掃される。鉄道災害がますます頻繁に起こる。旅行中の長蛇の列に一瞬の警告もなく、混乱、衝突、死が起こる。終わりは近く、恩恵期間は閉じようとしている。ああ、見出すことのできるうちに神を求めようではないか。このお方が近くおられるうちに呼び求めよう！預言者は次のように言っている、「すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう」（ゼパニヤ 2:3）。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1890 年 4 月 21 日）

この地上歴史の終わりの光景において、戦争が激しく続くであろう。伝染病、疫病、飢饉があるであろう。海水がその境を越えてあふれるであろう。財産と生命が火災や洪水で滅ぼされるであろう。これはキリストがそのために死なれた魂は、キリストが彼らのために用意しに行かれた住まいにふさわしくされつつあるべきことをわたしたちに示すのである。（ﾎｰﾑ・ﾐｯｼｮﾅﾘｰ 1897 年 7 月 1 日）

わたしたちは悪に抵抗するためには、絶えざる見張りと祈りを要求される時代に生存している。神の尊いみ言葉が、天の王に忠実でありたいと願う青年たちの標準となるべきである。彼らに聖書を研究させなさい。聖句を次々と暗記させ、主が何と言われたかについて知識を得させ、それからこのお方のみ言葉に厳密に従わせなさい。テストされるとき、裁判において、青年たちに神のみ言葉を彼らの前に広げさせ、そして謙遜な心をもって、信仰のうちに主の道を見つけ出すための知恵と、そこに歩むための力をこのお方に求めなさい。主はご自分の子らを愛される。そして母親が自分の子供に対するよりも強く深い愛情もって愛されるのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1887 年 8 月 3 日）

「世は過ぎ去る」

「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。」（ヨハネ第一2:15–17）

自分たちが世に仕えながら、なお神を愛することができると考える人々は、二心のものである。しかし、彼らは神と富に兼ね仕えることはできない。彼らは二心の者であって、世を愛し、自分たちの神への義務の自覚を全く失っていながら、なおキリストに従うものであると公言している。彼らはこちらでもなければ、あちらでもない。真理の純潔な原則への従順を通して、自分たちの手を清め、心を純潔にするのでない限り、彼らは両方の世界を失うことになる。……

真の信心を破壊しているのは、世俗の欲である。（教会への証 1 巻 531）

神は世から分離し、区別されている民を持たれる。だれでも、世の流行を真似したいという願いをいだくとき、このお方は彼らをご自分の子として認めるのをおやめになる。そして、彼らは世と闇の子となる。キリストを公言してきた人々が、実際にはこのお方を離れて、自分たちがイエスの恵みも柔和とへりくだりも知らないものであることを示す。彼らがこのお方と親しいならば、このお方にふさわしく歩むはずである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 9 月 9 日）

ああ、キリストに従う人々が、今危険にさらされているのが、家や土地ではなく、株や麦畑、あるいは命そのものでさえなく、キリストがそのために死なれた魂であることを悟るならば！わたしたちはいつも日ごとに会う男女が、裁きを受けなければならないことを覚えているべきである。彼らはわたしたちが義務に不忠実であったかどうか、わたしたちの模範が彼らを真理とキリストからそらせたかどうかについてわたしたちに不利な証をするために、あるいはわたしたちの忠誠が彼らを義の道へ向けさせたという証を担うために、白い大いなる御座の前に立つのである。これらの魂は終りのない時を通じて生き、神と小羊に讃美を捧げるか、もしくは、悪人と共に滅びるかのいずれかである。キリストは彼らが祝福の永遠を楽しむことができるために苦しみ、死なれたのである。わたしたちは彼らの救いのためにどのような犠牲を喜んで払うであろうか。（同上 1886 年 1 月 9 日）

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (IX)」

Reformation Herald Publishing Association

VII- もう一人の御使とふるい

各時代の大争闘下巻 377 にある、SDA教会内の分離を指し示した記述は、一回の出来事や一回の場合に言及したものではありません。それは、長い期間にわたり、続けて起こる一連の出来事を示しています。三つの局面が、この預言の中で明らかです。(1) テストとなるあらしが来る前に、アドベンチストの信徒の大部分が (ｸﾘｽﾁｬﾝの奉仕 52 参照)、真理に背を向け、自らサタンの旗じるしの下につきます。しかし、これは彼らが組織を離れることを意味しません。逆に、彼らは大部分をなし、ごく終りまで教会内で支配力を形成するのです (教会への証 5 巻 209-212 参照)。(2) 大きなテストがますます近づいてくるあいだに、この背教した大多数は自分たちの宗派の特徴を発達させ、一歩ごとにますます世と結合し、より完全にその精神にあずかるようになります。これが今わたしたちの時代に起こっていることです。(3) その後、大きなテスト、すなわち日曜法令がついにもたらされると、この大多数は、組織された教会として、その時の当局に屈するのです。それは彼らが「以前の兄弟たち」、すなわち黙示録 18 章の御使の働きをなすよう委任されてきた群れの最も苦い敵となります (各時代の大争闘下巻 372 と 377 比較)。

この忠実な残りの群れは、ちょうど 1844 年に第三天使が第二天使と結合したように、第三天使と結合します。では、第三天使は、第二天使とどのように結合したでしょうか。第三天使が 1844 年に来たとき、彼の持ってきた真理は、第一日アドベンチスト (ウィリアム・ミラーや他の再臨運動の指導者を含む)、すなわちそれまで第一と第二天使によって表されてきた人々によって拒絶されました。このミラー派の信徒たちのグループが第三天使の光を拒絶したとき、彼らは第一

天使と第二天使によって表されることがなくなりました。この時以降、第一天使と第二天使の象徴は、心から第三天使のメッセージを受け入れたこれらの再臨信徒の手のうちに続いたのです。第三天使が第一と第二天使に結合したのは、これらの忠実な信徒たち、すなわち自分たちのかつての仲間から離れ去り、セブンスデー・アドベンチスト教会の先駆者となった人々を通してでした。アドベンチストの信徒たちの組織内で分離があった一方では、今や新しく形成されたセブンスデー・アドベンチストのグループの中で手に手をとって働いている三人の御使たちの間では、結合がありました。

第三天使に加わることと第四天使（黙示録 18 章）が来ることには、類似点があります。歴史は繰り返しつつあります。改革されていないＳＤＡの母教会は、後の雨ではなく、神の怒りを受けることになり（教会への証 5 巻 211）、教会として彼らから神のご臨在が取り去られるときに、第一、第二、第三天使によって表されることはなくなります。当然、ついに「あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつ」となる教会は（牧師への証 265）、それ以上神の三人の御使によって表されることができません。これらは以前の兄弟たちの忠実な残りの群れを表すのです（各時代の大争闘下巻 377）。今や、この群れが彼らが黙示録 18 章の「御使によって象徴されているところの運動」として、大いなる叫びをあげる準備ができるまで、第四天使が第三天使のメッセージに力と栄光を加えるのは、この群れの中においてでなければならないのです。

ＳＤＡ改革者として、わたしたちがもし忠実であり続けるならば、すべての真のアドベンチストにとって課題であるこの勝利の経験にあずかるようになると信じています。ＳＤＡ改革運動が、現代の真理に対するその立場から、忠実な残りの群れに関わる預言的な絵図にあてはまるというのが、わたしたちの確信です。（詳細は研究 No.2「教会と残りの民」参照）。神のみ摂理において、この運動は黙示録 3:18-20 と黙示録 18:1 の光において、重要な働きをなすために召され、存在するに至ったことを、証拠が示しています。

キリストの初期の伝道の日々に、ユダヤ人の間では、来るべきであった預言されたエリヤに関して、大変な議論がありました。弟子たちでさえ、マラキ 4 章によれば「エリヤが先に来なければならない」のだから、イエスはメシヤではあり得ないと主張していたパリサイ人たちに混乱させられました。彼らにとって、「エリヤはすでにきたのだ。しかし人々は彼を認め」なかったということを知ることは、

なんという驚きの啓示だったことでしょう（マタイ 17:12）。この説明は、バプテスマのヨハネを神の使命者として認めていた人々にはすぐに受け入れられました。イエスは、「もしあなたがたが受けいれることを望めば、この人こそは、きたるべきエリヤなのである」と言われました（マタイ 11:14）。わたしたちはこの本の読者に、「もう一人の御使」について、同じ命題を残したいと思います。すべての人が、彼は来ることになっていることに同意しますが、すべての人が、彼は「すでにきたのだ。しかし人々は彼を認め」なかったことに同意するのではありません。

ラオデキヤの信徒たちにある問題は、彼らの霊的な盲目ゆえに（黙示録 3:17）、正しいことと間違っていること、真理と誤謬の違いを識別できないことです。「わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする」（イザヤ 5:20）。ラオデキヤへのメッセージの中で提供されている目薬だけが、神の光のうちに光を見るために必要な霊的識別力をわたしたちに与えることができる。

ここまで来て、読者の中のある人は、「わたしたちはこのようなことをまったく初めて聞いた。一度もこれらのことを教えられたことはなかった」と言われるかもしれません。事実、黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージについての真理を知っているアドベンチストはそれほど多くはありません。ですから、多大な人々は、光を見る立場にいないのです。

「光が地を照らすために輝き出るとき、主の助けのために参上する代わりに、彼らは自分たちの狭い考えに合わせるために、このお方の働きをしばりつけようとする。わたしはあなたがたに、主はこの終わりの働きを、物事の通常の順序とは全くかけ離れた方法で働かれると申し上げる。わたしたちの中には、いつも神のみ働きを支配したがり、世に伝えられるべきメッセージにおいて、第三天使に加わる〔黙示録 18 章の〕御使の指示の下で働きが進められるときに、どのような動きがなされるべきかでさえ指示をしたがる人々がいる。（牧師への証 300）

(46 ページの続き)

す。イエスは、何か一つでも、ただご自分を喜ばせるために何かなさったことがあるでしょうか。決してそんなことはありません！このお方は利己的ではありませんでした。では、キリストはこの誘惑に対して、どのように応じられたでしょうか。このお方は暗記した聖句（申命記 8:3）を引用なさいました。「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」。

二番目の誘惑は、憶測に関するものでした。ときどき、わたしたちは注意すべきほどに注意しないことがあります。そしてサタンは、イエスが不注意になるように誘惑しようとしたのです。サタンはイエスに、建物のてっぺんから飛び降りなさいと言いました。キリストが最初の誘惑に聖句を用いて応じられたのに気づいて、サタンは次に詩篇 91:11,12 の一部を引用することによって、このお方をわなにかけようとしました。「これは主があなたのために天使たちに命じて、……あなたを守らせられるからである。彼らはその手で、あなたをささえ、石に足を打ちつけることのないようにする」。しかし、彼は、天使たちはわたしたちが正しい道―神の道を―守るよう命じられていることを示す聖句の部分を言いませんでした！

サタンを喜ばせるためだけに、建物のてっぺんから飛び降りたところで、何も得るものはありません。ですから、キリストは再び、さらに別の聖句を引用して、「あなたがたの神、主を試みてはならない」をお答えになりました（申命記 6:16）。

第三番目の誘惑は、世への愛着についてでした。サタンはイエスの前に世の富と華やかさをことごとくその美しさのうちに見せました―罪によってそこなわれたところは示さなかったのです。このお方はもしキリストがただサタンに伏して拝みさえすれば、すべてを与えると約束したのです。イエスはどのように応じられたでしょうか？マタイ 4:10 は、次のように教えています。「するとイエスは彼に言われた、『サタンよ、退け。「主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」と書いてある』サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」、つまり、十誡の最初の二つの戒めに基づいた応答です。

若い読者のみなさん、これらの同じ誘惑は、毎日、わたしたちに一人びとりにも訪れます。それらはわたしたちをわなにかけて、ししの手に陥れようと偽っています。できる限りの防御を得たいと思いませんか？イエスにこのお方のみ言葉を心から学んで暗記できるように、さらなる助けを求めようではありませんか！

コロコロポテトとピーマンの炒め物

〔材料〕

じゃがいも	3 個
ピーマン	4 個
まいたけ	1 パック
塩	小さじ 1
オリーブ油	適量

〔作り方〕

1. ピーマンを横向きの千切りにします。
2. まいたけの石づきをとって、細めにさきます。
3. 熱したフライパンにオリーブオイルをしき、まいたけを炒めます。
4. 香りが出たら、ピーマンを入れて、しんなりしたら、お皿に取ります。
5. じゃがいもを 1cm の角切りにします。
6. オリーブ油を少し多めにしき、じゃがいもを炒めます。
7. 火が通ったら、4 を入れて、合わせます。

時間がないときの「もう一品」に便利です。
お好みで、ニンニクといためたり、バジルを散らしても。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

お話コーナー

神のみ言葉を心に覚える

「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。」(詩篇 119:11)

「どうして、聖句を覚えなければならないの?」と子供がたずねました。「ただ聞いたり読んだりするだけではだめなの?」

「覚える」と同じことを意味する別の言葉があります。それは、暗記する、すなわち物事を「心のうちに」学ぶことと呼ばれています。あなたが何かを読むとき、それを見て学びます。しかし、もしそれがすでに脳にたくわえられていることであれば、あなたがそれを本当にもっとよく知っていることがわかります。それはあなたから出てきます—それはすでにあなたの思い、もしくは「心」の一部となっているのです。

わたしたちはどうして聖書をこれほどよく知っている必要があるのでしょうか。あなたの敵、すなわち「悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」ことを思い出して下さい (ペテロ第一 5:8)。もしあなたのまわりを実際におなかのすいたライオンがついて来ているとしたら、どんな小さな防御でもありとあらゆるものが欲しいと思いませんか。もしライオンがおりの中に入れられたとしたら、あなたは気持ちがもっと落ち着くことでしょう。もしあなたが自分を守るために大きな棒しか持っていなかったとしても、少なくともいくらかより安全だと感じることでしょう。

イエスはどうでしょうか。このお方は、わたしたちが何に直面しているか理解しておられるでしょうか。マタイ 4 章には、悪魔がどのようにこのお方さえも試みようとしたかが書かれています。

最初の誘惑は、食欲に関するものでした。もちろん、わたしたちはみんな食べることが好きですし、食べる必要があります。しかし、ときどき、わたしたちは食べるべきではないものが食べたくなりますし、食べるべきものを食べたくないと思います。罪がこの問題を生じさせました。そして、サタン—罪の創始者—は、イエスがただご自分の食欲のために、石をパンに変えさせようとしたので